

今日の学校による人間形成の方式の歴史的位罫を押さえ、その意義と限界を見定めるために、「学校方式の時代」をつくり上げた19世紀後半から高度成長期にかけての学校による人間形成の様態を映し出す資料を編纂。

人間形成と社会

— 学校・地域・職業

全Ⅲ期21卷

木村

元編・解説

発行：クレス出版

(写真：『生徒に語った 私たちの学校の歴史』〔向中野学園、現学校法人スコレ〕カバーより、撮影＝藤村富蔵)

『人間形成と社会 —学校・地域・職業』の刊行に寄せて

一橋大学教授

木村元

20世紀の末頃まで拡大・肥大化し続けてきた日本の学校教育が転換点を迎えている。

学校と社会のありようを根本から問われる現状がある。戦後教育改革の中核となった中学校では、一クラスでひとりふたりは学校に行かなくなり、高校中退者が10万人を越えている。学校の基本的な単位である学級の「崩壊」がいわれ、社会の学校に対する漠然とした不信感が漂っている。

その対応にあたり、戦後の6-3-3-4制の教育の再検討、それぞれの教育機関の使命や役割の再考が求められてきた。また学校体系の構成原理自体を捉え直そうとする点でドラスティックな改革がいわれるが、そこにおいても、人間をつくり上げるという意味での人間形成が学校によって担われるという常識が前提になっている。

改めて問われているのは、学校による人間形成の方式そのものではないか。自明となったこの人間形成の方式自体が時代や社会の変化のなかで問われているのであり、その今日的な意味をいま一度社会との関係でつかみ直す必要がある。その際、この方式がどのような社会にいかにして受容されてきたのか。その構築、受容の過程を追いながら、今日の学校による人間形成の方式の歴史的な位置を押さえ、その意義と限界を見定めることは欠かせない。

本シリーズは、こうした課題に応えるために、あらためて「学校方式の時代」をつくり上げた19世紀後半から高度成長期にかけての学校による人間形成の様態を映し出す資料を以下の観点をもって三期にまたがって編纂した。

第Ⅰ期は、近代日本の成立にともなって制度化された学校方式による人間形成が、一挙に定着していったのではなく、社会の中に埋め込まれてきた人間形成の方式を媒介にしながら移行していく様を中心に描きだそうとした。学校方式の受容の仕方がうかがえる資料、さらに常に社会から学校が捉え直される諸相を示す資料を配した。

第Ⅱ期では、近代日本の社会形成と人間形成の葛藤や対応の諸相を示した。人間形成への自立的な価値を探求する行為は、その時々社会と有機的にその関係を作りながら、決して一方的な受け皿になることはない緊張関係を持って成立する。そうした緊張関係に注目して学校や地域社会での実践を示した。

さらに第Ⅲ期では、人間形成と社会への連絡ならびにその間の調整という点から関連の基本的な調査資料をまず提示し、就労と就学の連絡という課題のなかに人間と社会の調整問題を捉えた資料群、さらにその前提である産む・育てるというレベルでの人間と社会との連絡の調整に関する資料を掲げて編集した。

人間形成と社会 —学校・地域・職業

全Ⅲ期21巻 木村元編・解説 A5判/上製函入/クロス装

第Ⅰ期 学校方式の受容の諸相 全7巻

- 平成24年5月末日刊行 揃定価95,000円(税別) ISBN978-4-87733-652-3(セット) C3337
 - 第1巻 学校方式導入以前の人間形成 定価10,000円(税別) ISBN978-4-87733-653-0
 - 第2巻 学校による人間形成 — 制度の導入と展開 定価16,000円(税別) ISBN978-4-87733-654-7
 - 第3巻 店員養成の世界 定価12,000円(税別) ISBN978-4-87733-655-4
 - 第4巻 丁稚と徒弟の養成 定価16,000円(税別) ISBN978-4-87733-656-1
 - 第5巻 産婆・看護の学校方式化 定価10,000円(税別) ISBN978-4-87733-657-8
 - 第6巻 学校方式の問い直し 定価17,000円(税別) ISBN978-4-87733-658-5
 - 第7巻 学校方式の「郷土化」にむけて — 峰地光重と上灘小学校の教育 定価14,000円(税別) ISBN978-4-87733-659-2

第Ⅱ期 地域と学校による人間形成 全7巻

- 平成24年8月末日刊行 揃定価95,000円(税別) ISBN978-4-87733-660-8(セット) C3337
 - 第1巻 戦後新教育とコアカリキュラム 定価16,000円(税別) ISBN978-4-87733-661-5
 - 第2巻 地域の動態と教育の計画 定価18,000円(税別) ISBN978-4-87733-662-2
 - 第3巻 地域社会の女性と青年 定価11,000円(税別) ISBN978-4-87733-663-9
 - 第4巻 学校統廃合・過疎問題 定価16,000円(税別) ISBN978-4-87733-664-6
 - 第5巻 都市の住民の地域作り 定価10,000円(税別) ISBN978-4-87733-665-3
 - 第6巻 地域社会と学力 定価18,000円(税別) ISBN978-4-87733-660-0
 - 第7巻 地域社会に内在した人間形成言説 定価6,000円(税別) ISBN978-4-87733-667-7

第Ⅲ期 人間・社会連関の調整 全7巻

- 平成24年11月末日刊行 揃定価95,000円(税別) ISBN978-4-87733-668-4(セット) C3337
 - 第1巻 青少年人口の動態と労働事情に関する調査資料 定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-669-1
 - 第2巻 青少年労働市場に関する調査資料 定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-670-7
 - 第3巻 職業世界の新展開 定価15,000円(税別) ISBN978-4-87733-671-4
 - 第4巻 職業指導と少年職業紹介 定価15,000円(税別) ISBN978-4-87733-672-1
 - 第5巻 青少年労働市場と人間観の変容 定価14,000円(税別) ISBN978-4-87733-673-8
 - 第6巻 現代教育機構解説叢書 定価15,000円(税別) ISBN978-4-87733-674-5
 - 第7巻 社会の出産の手ほどき 定価10,000円(税別) ISBN978-4-87733-675-2

近代日本の人間形成と学校 —その系譜をたどる—

「学校方式の時代」をつくり上げた19世紀後半から高度成長期にかけての学校による人間形成の様態を描き出す。『人間形成と社会 —学校・地域・職業』(全Ⅲ期21巻)の解題でもある。

執筆者：木村元、前田晶子、大西公子、高瀬雅弘、仲島愛子、船橋一男、後藤篤、菊池愛美、牛木純江、白松大史(順不同)

A5判/上製函入/クロス装 平成25年2月末日刊行
定価3,800円(税別) ISBN978-4-87733-676-9 C3037

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メロ一ナ日本橋
☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>



株式会社クレス出版

●書店名

第Ⅰ期 学校方式の受容の諸相 全7巻

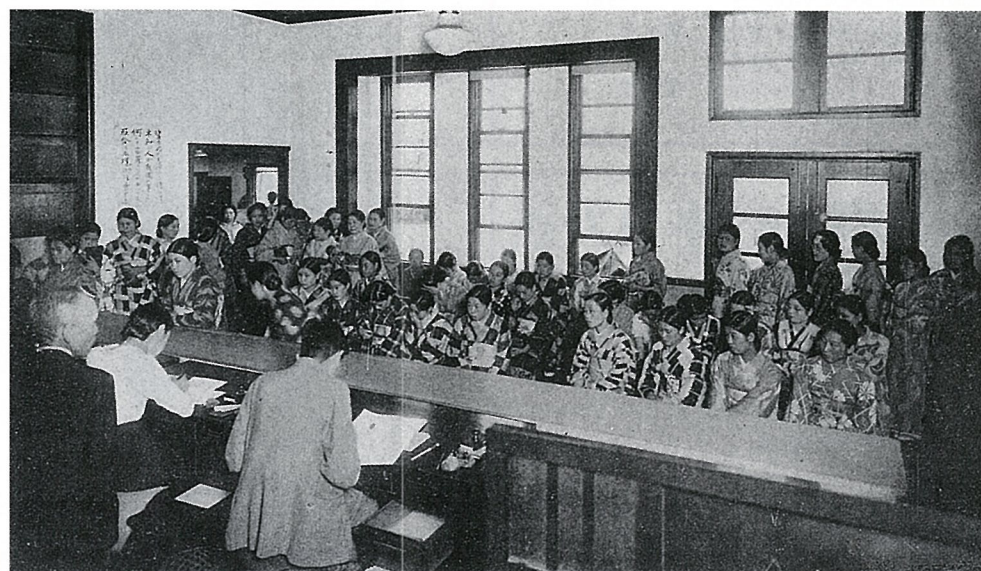
- 第1巻 学校方式導入以前の間人形成
『子孫繁昌手引草』 嘉永四年、関口豊種『養育教論』 文政五年 ほか
蘆洋『小児方鑑』(抄) 貞享三年
堀内素堂『幼幼精義 附名称義略』 嘉永元年
堀内素堂『保嬰瑣言』 嘉永五年
- 第2巻 学校による人間形成 — 制度の導入と展開
諸葛信澄『小学教師必携』 烟雨樓 明治6年
国府寺新作・相沢英二郎『新式 学校管理法』 成美堂 明治26年
遊佐敏彦『新徒弟制度』 社会教育協会 昭和9年
協調会『徒弟制度と技術教育』(抄) 協調会 昭和11年
- 第3巻 店員養成の世界
新山虎治『欧米参考 店員訓練及待遇法』 日本評論社 大正13年
清水正巳『店員の待遇法』 商店叢書刊行会 大正13年
名古屋地方職業紹介事務局『百貨店ニ於ケル少年店員 採用、教育方針其他調』 昭和8年
- 第4巻 丁稚と徒弟の養成
丸山侃堂・今村南史『丁稚制度の研究』 政教社 明治45年
佐藤守・佐田玄治・羽田新・板垣幹男『徒弟教育の研究』 御茶の水書房 昭和37年
- 第5巻 産婆・看護の学校方式化
山崎富子『牡鹿産婆組合講話』 明治22-23年
笹川美壽『産婆十三戒』 明治25年
田中 定『赤痢虎列刺病看護法』 看護婦講習会 明治28年
岡本信子『産婆看護婦 受験者の顧問』 集成会 明治38年
中央職業紹介事務局『職業婦人調査(看護婦・産婆)』 昭和2年
- 第6巻 学校方式の問い直し
大西伍一『土の教育』 平凡社 大正15年
松田甚次郎『土に叫ぶ』 羽田書店 昭和13年
- 第7巻 学校方式の「郷土化」にむけて — 峰地光重と上灘小学校の教育
峰地光重・大西伍一『新郷土教育の原理と実際』 人文書房 昭和5年
峰地光重『上灘小学校の教育』 上灘小学校 昭和8年
上灘小学校『本校農業教育施設経営概要』 上灘小学校 昭和9年頃
上灘小学校『我が校の図画教育』 上灘小学校 昭和8年頃

第Ⅱ期 地域と学校による人間形成 全7巻

- 第1巻 戦後新教育とコアカリキュラム
北条小学校『コア・カリキュラムの構成と展開』 誠文堂新光社 昭和24年
馬場四郎・久保田浩編『日常生活課程』 誠文堂新光社 昭和26年
- 第2巻 地域の動態と教育の計画
中央教育研究所・川口市社会科委員会『社会科の構成と学習』 金子書房 昭和22年
今井誉次郎『農村社会科 カリキュラムの実際』 牧書店 昭和25年
大田 堯『地域教育計画』 福村書店 昭和24年
- 第3巻 地域社会の女性と青年
大田 堯編『農村のサークル活動』 農山漁村文化協会 昭和31年
鶴見和子編『エンピツをにぎる主婦』 毎日新聞社 昭和29年
- 第4巻 学校統廃合・過疎問題
伊ヶ崎暁生編『子どもの学習権と学校統廃合』 労働旬報社 昭和48年
池井 保『亡び村の子らと生きて』 あゆみ出版 昭和52年
村山 隆『たにし学校』 あゆみ出版 昭和61年
- 第5巻 都市の住民の地域作り
盛岡友の会『田山村の生活』 昭和10年
友の会中央部『友の会 東北セツトルメント要覧』 昭和11年
吉田幾世『東北セツトルメント物語』 昭和14年
吉田幾世『生徒に語った 私たちの学校の歴史』 向中野学園 昭和47年
- 第6巻 地域社会と学力
兵庫県出石郡合橋町立相田小学校(東井義雄) 学校文集『玉生が丘』(昭和29年~35年)
- 第7巻 地域社会に内在した人間形成言説
『奄美』大正14年11月号~大正15年10月号(抄) 奄美社

第Ⅲ期 人間・社会連関の調整 全7巻

- 第1巻 青少年人口の動態と労働事情に関する調査資料
人口問題研究会『東北地方の人口に関する調査』 昭和10年
秋田県職業課『農村青少年人口の構成分布に関する資料』 昭和15年
東京地方職業紹介事務局『少年勤続者調査』 昭和7年
東京府学務部職業課『地方より上京せる少年少女就職状況調査』 昭和14年
東京府学務部職業課『徒弟の労働事情調査』 昭和14年
厚生省職業局『少年工の生活及び輔導に関する調査』 昭和17年
- 第2巻 青少年労働市場に関する調査資料
中央職業紹介事務局『少年職業紹介施設及取扱成績』 大正15年
中央職業紹介事務局『少年職業紹介施設及取扱成績 昭和八年三月』 昭和8年
中央職業紹介事務局『少年職業紹介施設及取扱成績 昭和九年三月』 昭和9年
東京府学務部職業課『小学校卒業(退学) 児童就業状況調査』 昭和12年
厚生省臨時軍事援護部『小学校卒業児童就職に関する資料』 昭和13年
厚生省職業部『小学校卒業児童就職に関する資料』 昭和14年
厚生省職業部『小学校卒業児童就職に関する資料』 昭和15年
- 第3巻 職業世界の新展開
東京市政調査会『東京市の実業補習教育』 昭和3年
大林宗嗣『女給生活の新研究』 巖松堂書店 昭和7年
東京地方職業紹介事務局『児童の見た職業』 昭和11年
- 第4巻 職業指導と少年職業紹介
三沢房太郎『少年職業指導と紹介』 昭和2年
東京地方職業紹介事務局
『東京市高等小学校並少年職業紹介所に於ける 職業指導施設』 昭和6年
長野市職業紹介所『少年職業紹介と社会及経済事情の変遷』 昭和12年
川野温興『国営前の職業紹介事業』 昭和16年
- 第5巻 青少年労働市場と人間観の変容
美濃口時次郎『改訂増補 人的資源論』 八元社 昭和16年
鈴木舜一『勤労文化』 東洋書館 昭和17年
- 第6巻 現代教育機構解説叢書
小川実也『地域中心としての学校施設』 扶桑閣 昭和10年
松永健哉『児童校外教育と其の実際』 扶桑閣 昭和11年
本田正信『社会的傾向としての入学準備と職業指導』 扶桑閣 昭和11年
浦辺 史『学齡前児童の諸問題』 扶桑閣 昭和11年
黒瀧成至・黒瀧きよ子『性教育の諸問題』 扶桑閣 昭和11年
大矢恒子『教育と婦人の問題』 扶桑閣 昭和11年
中 重信『生産教育の諸問題』 扶桑閣 昭和12年
- 第7巻 社会の出産の手ほどき
岩崎直子『安産の志るべ』 日進堂 大正15年
小林 春『誤解矯正 安産手引』 方針堂 明治40年



職業紹介所婦人部の拡張(国営前の職業紹介事業)より

(二) 教師ノ性情

第二百四十七節 曠方執行ニ就キ第一ニ注意ス可キモノハ教師其人ノ徳性トス教師ハ人タルモノニ欠ク可カラサル一切ノ性情ヲ具有セサル可カラサルハ勿論ナレド就中曠方上其殊ニ重要ナルモノヲ概論スルコト左ノ如シ

第Ⅱ期第2卷『農村社会科カリキュラムの実践』

一、農村のカリキュラム

1. 農村の教科課程

農村の学校の教科課程について考えてみたいと思う。現代の日本の農村には、まだがんな封建性を持っているところが多い。それはいうまでもなく農村の生産方法が、封建時代そのままの鉄錐農業であることが、根本的な原因をなしているからで、この問題が解決しない限り、農村の徹底的な近代化はむずかしい。こういう農村の現実を直視することを忘れて、近代化された都市の教科課程と、農村の教科課程とを、同様に論ずることは、大きな誤りであると思う。これまでの教科課程の研究では、こういうことは、全く注目されていなかったといつていい。

アメリカなどの場合は、都市と農村の教科課程は、それほど違つていなくてもよいはずであると思う。それは、アメリカの農村は、近代化されて、生産方法は、トラクターやコンバインの農業であるからである。そして、農場には経営者があつて多くの農業労働者が働いている。それは、都市の工場における経営者と労働者との関係と少しも変りがない。農場はみどりの工場であつて、農業

第Ⅲ期第3卷『児童の見た職業』

児童の見た職業

僕の理想

高一 森 健 一

僕の家の職業は木函製造である。僕も将来はお父さんの後をつぐつもりだ。

僕は毎日々々家の手傳ひをしてゐるのでだん／＼家の職業がわかつてきた。僕は配達の方をしてゐたが其の度毎に、ていねいに取あつかはなければ、良いお得意はとれないであらうと心の中で考へた。又雨の日などに配達をすると、よく相手の方でも感心だと云つてほめてくれる。その度にうれしく思ふ。

又組合の函屋さんが来て僕に、「お前はよく働いてゐるが、大きくなつたら何になるつもりだ。」

第Ⅰ期第6卷『土の教育』

三、學習に就いて

(一) 學習精神
學習とは何か

私は前に勞働のことを書き、今は學習のことを書かうとしてゐる。故に讀者は學習といふのは所謂學科の研究のことだらうと考へるであらう。勿論大體はこの方面を書かうとしてゐるのである。然し私は學習といふことをこんなに狭く解釋したくはないのである。

教育學的にいへば「學習」には廣狹二義がある。我々が常識的に使つてゐるのは多くは狹義の方で、學習室、學習時間、學習經濟、學習法などいふ類である。然し私は之を廣義に解釋して記述を進めていきたい。篠原氏に従へば「新しき境遇に順應する爲に必要な

第Ⅱ期第5卷『生徒に語つた私たちの学校の歴史』

農村セツルメントへの誤解

今度は子供のことで大失敗をしたお話しをきかせましょう。

春が来ました。春を待つ心は、長い冬にとどめられた雪國の人でなければわかりません。山の雪が少しずつ消えて、べっこ(牛のこと)位になったら苗代に種もみを蒔くのだと、村の人たちはだんだん小さくなって行く雪溪と毎日ならめっこをしています。

その頃になると、うすも色の片栗の花が咲き出します。それをとりに山を登ってゆくと沢に自生のわさびが生えているのも見つかったり、うるい、うど、しどけ、ぼうな、それにしょでこといって、山菜の王様といいたいような、とてもやわらかでおいしい山菜もたまに見つかりました。山歩きの得意な小母さんたちについて山菜とりに出かけるのは本当に楽しいものでした。

男の子のお節句といわれる端午の節句の日に、おひな祭りと春が来たお祝いもかねて、子供会をしようということになりました。

お部屋の中央に赤い布をしいてひな段をつくり、全国友の会から送られた荷物の中から見つけたお人形や動物のぬいぐるみや、その他のおもちゃやお菓子などをその上に飾り、お母

第Ⅲ期第6卷『教育と婦人の問題』

伸びて行く働く婦人

女性の進出

働く婦人は、だまつて働いてゐるだけだ。しかし、彼女等は、家庭生活や、結婚を實力で、さつさと變へて行つてゐる。

「教育」はこの事實に對して餘り無力である。しかし、遅ればせ乍ら、この「働く婦人」を教育のレンズの中から照し、最も正しい發展に導くやうにしたものだ。

しかしそれを知るためには、どうしても働く婦人の、働く有様をもつとはつきりと知る事が必要になつて来る。

さうすれば、働く婦人と教育との関係も又正確に理解する事が出来ようし又、働く婦人の生活を、正しい位置に置く方法も考へ出て来ようといふものだ。

一體現在の日本に、どれだけ働く婦人がゐるか？ 昭和十年の内務省の統計によると婦人勤勞有職者は(農耕労働者を加へて)一千十三萬だといふ事だ。それは婦人人口の約三割に當